学校安全総合支援事業報告書【防災に関すること】

学校名「熊本県立球磨中央高等学校」

住所：熊本県球磨郡錦町西１９２

電話：０９６６－３８－２０５２

Ⅰ　学校の基本情報

〇生徒数：３２３人　（１１学級）
〇職　員　数　：４８人
〇熊本地震（または令和２年７月豪雨）時の状況
第二グラウンド（ソフトボール場）と隣接する校長官舎が大雨で冠水し、令和３年度にグラウンドの工事と校長官舎の解体工事が行われた。自宅が被災した生徒がおり、仮設住宅や親戚宅から通学する生徒がいた。

Ⅱ　取組の概要

１　安全教育手法の開発・普及

（１）　防災教育の実施

「学校防災教育指導の手引」を活用し、「自助」と「共助」ができる力の育成を意識した防災学習を実施した。

また、カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、防災教育と各教科を関連づけた授業実践を行った。

４月・学校安全計画、学校防災マニュアル等の周知と確認
　・避難経路の確認
５月・防災防火避難訓練
　・「緑の流域治水」出前授業
６月・梅雨期及び台風期における防災体制の確認
　・備蓄品の確認及び今後の運用等の協議
７月・学校運営協議会にて防災教育公開授業及び実践的避難訓練について協議
９月・雨庭についての協議
１１月・備蓄品の納品
　・避難訓練（公開避難訓練の事前指導含む）
　・公開授業及び実践的な避難訓練
１１月・学校運営協議会にて防災教育公開授業及び実践的避難訓練について講評
２月・学校運営協議会にて今後の防災教育について協議
３月・次年度の防災教育について協議

（２）　機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

11/1（水）と 11/15（水）の２回実施した。本校生徒と職員で行い、地震とその余震に際して身の安全を確保することや、職員・生徒の役割分担・連携方法について確認した。今回は新しい避難訓練と位置づけ、教室待機訓練による安全確保の意義を周知し、実施した。

（３）　防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

５月・防災主任研修会
８月・第２回推進委員会及び防災主任研修会
　・先進地視察
９月・公開授業参観（球磨工業高校）
１０月・公開授業参観（球磨支援学校）
１１月・公開避難訓練参観（球磨支援学校）
　・公開授業及び公開避難訓練（本校）
　・防災主任研修会（「防災教育研究推進校」研究発表会）
１２月・第３回推進委員会及び防災主任研修会

（４）　ＰＤＣＡサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

・防災マニュアル・学校安全計画の周知
・危機管理マニュアル、学校安全計画に基づいた避難訓練や防災教育関連行事の実施
・防災教育関連行事後のアンケートと振り返り

・各マニュアル及び学校安全計画の改善

（５） ＡＥＤを用いた心肺蘇生法

・本校職員及び運動部活動キャプテンとマネージャーを対象とし、7/20（木）に実施した（予備日として 8/4（金）も実施）。

・2 年生の保健の授業において､11 月に実施。

Ⅲ　取組の成果と課題

１　安全教育手法の開発・普及

（１） 防災教育の実施

ア　成果

防災教育に関する教科横断型の授業を公開授業として実施した。全校生徒を対象とした防災教育授業において、各教科の視点から防災を見つめる絶好の機会となった。生徒は、防災に関する知識だけでなく、思考力・判断力・表現力を身に付ける機会となり、職員は自分の教科と防災を繋げる大変意義深い公開授業となった。

イ　課題

次年度以降の継続的な実施ができるかが課題となるが､「防災月間（仮称）」の設定などを検討している。内容としては、全ての授業担当者が教科と防災を関連付けた授業を月間中１時間行うなど、全校体制での取り組みを検討している。

（２） 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

ア　成果

1 回目実施後のアンケートから、ケガ人搬送の効率化や避難経路の安全性や、安否確認の徹底など多くの反省があがった。2 回目実施後のアンケートでは、生徒・職員ともに安全かつ迅速な避難についての理解が深まり、目的に沿った変容が見られた。

イ　課題

様々な場面や状況を想定した訓練の必要性を感じた。職員・生徒の意見を集約しながら、訓練の内容や時期、各マニュアルの見直しも含めて再考したい。

（３） 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

ア　成果

推進委員会や防災主任研修会、先進地視察を通じて防災教育の重要性や防災教育を継続的に実施していく必要性を感じた。

イ　課題

各マニュアルや学校安全計画の改善を計画的に行う必要があり、校内各部や関係機関と連携し、安全教育と並行して計画的に取り組んでいきたい。また、生徒・職員が防災教育に自分事として参画できるために工夫が必要である。

（４）ＰＤＣＡサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

ア　成果

新しい避難訓練（教室待機訓練）を実施したが、現在では地震が発生した場合は屋外に逃げることが前提となっている。今後、構造物の耐震性や余震想定、液状化現象といった様々な状況を想定する良い機会となった。

イ　課題

学校防災教育指導の手引等を十分に活用し、本校の各マニュアルの見直しを計画的に行いたい。

（５）ＡＥＤを用いた心肺蘇生法

ア　成果

毎年行っている職員と運動部活動キャプテン及びマネージャーを対象として講習会を実施した。今回拠点校としていただいた胸骨圧迫練習用のキットを活用し、多くの生徒が実践できた。

イ　課題

講習会だけでなく、授業や行事を活用し、全生徒が心肺蘇生法を学ぶ機会を作りたい。